



マチ？チヨウ？

「蒲郡の昔の地名の由来を知りたい」というお問い合わせをいただくことがあります。

地名の起りには諸説あり、古くから使われているけれども由来は分からない、ということも多々あります。

蒲郡市域の歴史や民俗について詳しくは郷土史研究家の伊藤天章氏が昭和35年に発行した『蒲郡風土記』には形原の小字地名についての記述が、同じく昭和38年発行の『蒲郡史談』には、郷名や通称の地名などが掲載されています。この他にも『蒲郡地名考』『地名読みものわが町シリーズ』『ほんとのんほい』など、調べ物の参考になる本が図書館の郷土資料室に収められています。

地名といえば、町の字をマチと読むかチヨウと読むか、ちよつと

迷うところですよ。蒲郡市の町名は旭町・上本町・栄町・宝町・中央本町・本町・緑町・港町・元町はマチ、それ以外はチヨウと読みます。

右記の町名は、いずれも昭和37年施行の「住居表示に関する法律」による新たな区割りで誕生したものです。蒲郡新聞(昭和39年12月19日付)には、新たに12の町に区割りされた旧蒲郡町中心部の町名の由来が紹介されています。それによると御幸町は、むかし真ん中の通りを「みゆきまち」通りといったところから付けられたそうですが、新町名は「みゆきちよう」。なぜ読み方を変えたのかは残念ながら書かれていません。



市内で一番新しい町「海陽町」平成5年10月1日、埋め立てにより誕生しました。

深海でいい湯だなあ

光さえも届かない、暗く冷たい深海底に温泉が沸くことを、ご存知ですか？熱水噴出孔(チムニー)と呼ばれる海底温泉には、たくさん生物がいます。一般に、深海は生物が少ないと言われていますが、そこはさながら、にぎわう温泉街といったところでしょうか。今回は、そんな温泉街の住人から、エビ・カニ・ヤドカリの仲間(十脚甲殻類)を紹介いたします。

まずは、ゴエモンコシオリエビ。名前にエビとついています。実は、ヤドカリの仲間。その名は、釜茹での刑に処せられた、天下の大泥棒「石川五右衛門」に由来しています。続いてはユノハナガニ。温泉の「湯の花」にちなんで名づけられたカニです。最後は、オハラエビ。民謡会津磐梯山に登場する「朝風呂大好き小原庄助さん」から名前をもらったエビです。いずれも、大きさは5〜6センチ程度と小さめながら、熱水噴出孔の周辺に、うじゃうじゃと集まって暮らしています。真つ暗な深海にすむためか、色は白く、目もほとんど退化しています。

現在生命の海科学館で開催しているミニ企画展「神秘の深海世界」では、海洋研究開発機構(JAMSTEC)が誇る潜水調査船「しんかい6500」の熱水噴出孔調査も紹介しています。

実際に、しんかい6500が採集したゴエモンコシオリエビや、ユノハナガニなど、貴重な深海生物の標本を間近で見ることができます。熱水噴出孔にすむ彼らが、深海の底で「いい湯だなあ」と過ごしているかと思うと楽しいですね。皆さんも、ぜひ深海の温泉街をのぞきにきてください。



ユノハナガニ(甲幅5センチ) しんかい6500採集

生命の海科学館 ☎ 66♦1717